

森林利活用ビジョン

福島県 柳津町

柳津町森林利活用ビジョン

みらいに活かす 「宝の山」

スローガン
4つの柱

施策の方針

アクション

「宝の山」の新しい魅力を見つける取り組み

観光に資する森林づくり
遊べる・学べる・癒される森林づくり

「宝の山」を守る取り組み

自然と共生できる森林づくり
安全・安心な森林づくり

「宝の山」を磨き上げる取り組み

森林整備の推進
林道整備の推進

「宝の山」をみらいに繋げる取り組み

森林の境界明確化
所有者の意欲向上
木を伐る達人後継者育成

柳津町の宝、会津桐利活用

森林環境学習・県民参画の推進

景観整備事業

里山のシンボル、森林公園再整備事業

森林認証取得やJクレジット創出などの取り組み（再掲）

災害に強い森林づくり
自然と共生できる森林づくり

林道維持管理事業（再掲）

森林緩衝帯整備事業

木材供給網構築に向けた取り組み

森林認証取得やJクレジット創出などの取り組み

林道維持管理事業

国庫補助金を活用した森林整備事業

町有林管理事業

担い手の育成事業（地域おこし協力隊等の活用）

経営計画作成推進事業

認可地縁団体活用推進事業

森林経営管理制度

森林境界明確化事業

森林利活用ビジョン運営事業

「柳津町森林利活用ビジョン」に込めた思い

柳津町長 小林 功

- 柳津町森林利活用ビジョンにおける50年後にあるべき森林の姿を「みらいに活かす「宝の山」」と決めました。
- 森林利活用ビジョン検討会においては様々な意見がありましたが、その中には過去に取り組んできた植樹から始まる森林整備は「「将来世代に財産を残してあげたい」という強い思いを持ってやってきた」という意見がありました。
- 自分の子孫に財産＝「宝」を残してあげたいという思いは大変尊く、町の森林のあるべき姿に組み込むべきだと考え、今は材の値段が低く価値のない山とみなされていたとしても、未来の世代に向けて「宝の山」にして活かしていくという思いを言葉にしています。未来の文字は振興計画に則り、誰でも読めるようひらがなで表現しております。
- 会津人のほとんどが知っている民謡「会津磐梯山」には「会津磐梯山は宝の山よ」という歌詞が出てきます。また、柳津町にとっては柳津町と西山村の合併の際、100年杉が多くある大成沢や四ツ谷魚留の西山村村有林を「宝の山」として受け取ったという歴史があります。
- 会津磐梯山に広がる森林の恵みに対する感謝と山や森林への誇りが込められた一節にあやかるとともに、柳津町の歩んできた歴史を踏まえて、柳津町の山とそこに広がる森林全てが「宝の山」として感謝され、誇りに思われることを祈念してビジョンのスローガンとします。

令和7年3月14日

柳津町森林利活用ビジョン スローガンと4つの柱

スローガン

みらいに活かす「宝の山」

ビジョンの柱

「宝の山」を
みらいに
繋げる
取り組み

「宝の山」を
磨き上げ
る取り組
み

「宝の山」を
守る取り
組み

「宝の山」の
新しい
魅力を
見つける
取り組み

「宝の山」をみらいに繋げる取り組みにより50年後どうなっていて欲しいか

- ・自分の森林がどこにあるのかわかっている。
- ・自分の持っている森林から様々な恵みを得られる実感を持てる。
- ・林業で働きたいという人が増えている。

「宝の山」を磨き上げる取り組みにより50年後どうなっていて欲しいか

- ・森林に人の手が入り、明るい森林になっている。
- ・森林に行くための林道がきちんと整備されている。

「宝の山」を守る取り組みにより50年後どうなっていて欲しいか

- ・大雨や台風などの災害でも被害が少ない強い森林になっている。
- ・クマなどの野生動物と人が棲み分けて暮らしている。

「宝の山」の新しい魅力を見つける取り組みにより50年後どうなっていて欲しいか

- ・森林に興味を持って観光する人が増えている。
- ・大人も子どももみんなで行って楽しみながら学べる森林が増えている。

みらいに活かす「宝の山」

「宝の山」をみらいに繋げる取り組み

森林の境界明確化 所有者の意欲向上
木を伐る達人後継者育成

森林利活用
ビジョン
ン 運営
事業

森林境界
明確化
事業

森林経営
管理制度

認可地縁
団体活用
推進事業

経営計画
作成
推進事業

担い手の育
成事業（地
域おこし協
力隊等の活
用）

森林の境界明確化

- ・現在の課題：自分の森林がどこにあるのかわからず、自分の森林という実感がない。
- ・50年後あるべき姿：自分の森林がどこにあるのかわかっている。
- ・施策の方針：航空測量やドローンなど新しい技術を活用して行う。

所有者の意欲向上

- ・現在の課題：お金にならない等の理由で森林を持ちたくないという方が増えている。
- ・50年後あるべき姿：自分の持っている森林から様々な恵みを得られる実感を持つ。
- ・施策の方針：ビジョンの想いを知っていただき、経営できる森林を増やす。

木を伐る達人後継者育成

- ・現在の課題：町内の林業事業者が少なくなっており、高齢化している。
- ・50年後あるべき姿：林業で働きたいという人が増えている。
- ・施策の方針：小規模ながらも確かな技術を持つ、木を伐る達人を育成する。

森林利活用ビジョン運営事業※森林環境譲与税活用

- ・柳津町森林利活用ビジョンを策定した後、年1回を目安にビジョンに掲げた事業の進捗状況確認とアクションプランの点検を行う運営会議を実施します。
- ・運営会議はビジョン作成検討会を基本として組織し、運営会議の運用は外部委託します。
- ・また、町内外に森林利活用ビジョンの広報周知を図るため、イベントを開催し、委託内容に含めます。

森林境界明確化事業※森林環境譲与税活用

- ・柳津町の森林は国土調査が終わっておらず、森林所有者にとって自分の森林がどこにあるのかわからないという大きな問題があります。
- ・国土調査は所有者の合意形成が難しく、あまり進んでいないのが現状なので、森林境界保全図という航空レーザ測量データと現地測量による補正を加えた図面で1/4条地図と同等の精度の図面を作成し、所有者の同意を得た上で確定させていく事業です。

森林経営管理制度※森林環境譲与税活用（条件付き）

- ・森林境界明確化準備事業において作成された施業可能箇所林班において森林経営管理制度を進めて行くための準備を行います。但し、柳津町においては森林境界明確化の後でないという意味がないため、森林境界明確化事業の後に進めて行くこととします。

認可地縁団体活用推進事業

- ・柳津町には地区共有林が数多く存在するため、今後共有林が有効活用できるよう、認可地縁団体制度の周知等を行っていきます。

経営計画作成推進事業※地方交付税交付金(特別交付税措置)活用

- ・現在、県の造林補助金を受けたり、Jクレジットの創出のためにも経営計画作成が必要となっています。
- ・町民が所有する森林の経営計画作成できるよう、地域林政アドバイザーによる助言や指導を実施します。とりわけ、ふくしま森林再生事業等で既に整備がなされた森林を中心に進めて行けるように取り組みます。
- ・また、町で既に進めている航空レーザ測量成果を活用した路網整備シミュレーションや収益シミュレーション等ICT新技術導入を検討します。

木を伐る達人後継者育成事業※地域おこし協力隊制度等の活用

- ・柳津町の林業事業体は個人事業主が主体であり、またその高齢化も進んでいます。柳津町の森林は急傾斜地も多く、大規模な施業が向いているところが少ないため、小規模事業者ながらも樹上作業や自伐型林家として自立できる、確かな腕を持つ「木を伐る達人」を育成していく必要があります。そのため、若い方に「木を伐る達人」として就業してもらえようPR等に努めるとともに、地域おこし協力隊等の制度を活用します。

柳津町木製品プレゼント事業※森林環境譲与税活用

- ・柳津町の名産品である会津桐をはじめとして、柳津町には多くの木材があり、かつての産業として桐下駄があったなど、加工も盛んです。成人式において会津桐の名刺入れやと桐下駄等をプレゼントし、柳津町の木製品についての意識を醸成します。また、ミズナラ材を活用した木製品など、多様な木材をプレゼントすることを検討し、「木づかい」運動機運の醸成を行います。

4
つ
の
柱

みらいに活かす「宝の山」

4
つ
の
柱

「宝の山」を磨き上げる取り組み

施
策
の
方
針

森林整備の推進

林道整備の推進

ア
ク
シ
ョ
ン
プ
ラ
ン

町有林
管理事業

国庫補助金を
活用した
森林整備事業

林道維持
管理事業

森林認証取得や
Jクレジット創
出などの取り組
み

木材供給網
構築に向け
た取り組み

「宝の山」を磨き上げる取り組み 施策の方針

森林整備の推進

- ・現在の課題：森林整備面積が低調であり、人の手の入らない森林が増えている。
- ・50年後あるべき姿：森林に人の手が入り、明るい森林になっている。
- ・施策の方針：町有林の整備や補助金による森林整備を進める。また、木材の流通や使い道についても未来に希望が持てるよう検討する。

林道整備の推進

- ・現在の課題：林道は町が管理しているが、維持管理するためのお金が不足している。
- ・50年後あるべき姿：森林に行くための林道がきちんと整備されている。
- ・施策の方針：森林環境譲与税などの財源により林道を維持する。防災のためにも定期的な林道パトロールを実施する。

町有林管理事業※地方交付税交付金（特別交付税措置）活用

- ・町有林は柳津町民の宝であり、有効活用が求められています。
- ・森林の公益的機能の発揮のためにも、民有林との協調出荷を図るためにも計画的な町有林での皆伐・間伐出荷は必要だと考えられます。
- ・一方、町有林においては境界明確化ができていない個所も多いため、地域林政アドバイザーや県補助金等の財源を活用して町有林の境界明確化を先行して実施することとします。

国県補助金を活用した森林整備事業

- ・カシノナガキクイムシ生息域の拡大等もあり、柳津町のコナラ・ミズナラには深刻な被害があります。また、原発事故による放射性物質対策として、キノコ原木となるコナラやミズナラの天然更新・萌芽更新が重要です。
- ・国県の補助金を活用し、広葉樹林再生事業や造林補助の実施可能性を模索します。

林道維持管理事業※森林環境譲与税活用

- ・柳津町には多くの林道があり、高規格な林道も整備されています。計画的な修繕・整備を行えるよう、森林環境譲与税を活用して林道の維持管理に努めます。
- ・また、林道の安全安心のため、定期的な林道パトロールを実施します。

柳津町の公共建築物等における木材の利用促進に関する基本方針

- ・柳津町では当該基本方針を策定しているため、町の公共建築物の整備の際に町産材が使えるよう分離発注等の制度周知を図ります。

森林認証取得やJクレジット創出などの取り組み

- ・県内外で広がる、森林に新たな価値を付与する取り組みである森林認証の取得や、Jクレジットの創出について情報収集に努めるとともに、検証のために町有林での導入可能性を探ります。

木材供給網構築に向けた取り組み

- ・柳津町の木材は他地域へ運ばれて製材・加工され使用されることが多く、柳津町産材が町内で使用される事例が少ないのが現状です。柳津町の木材が安定的に出材されること及び柳津町産材が町の公共建築物や住宅に使用できるよう、木材ストックヤードの整備可能性や木材乾燥貯蔵庫の導入可能性、柳津町だけでなく奥会津五町村活性化協議会で検討が進む集荷ルートの構築などあらゆる可能性を検討します。

「宝の山」を守る取り組みについて

みらいに活かす「宝の山」

「宝の山」を守る取り組み

安全・安心な森林づくり

自然と共生できる森林づくり

森林緩衝帯
整備事業

林道維持
管理事業
(再掲)

自然と共生
できる
森林づくり

災害に強い
森林づくり

森林認証取得や
Jクレジット創出
などの取り組み
(再掲)

スローガン

4つの柱

施策の方針

アクション

安全・安心な森林づくり

- ・現在の課題：柳津町では近年土砂災害が発生しており、また人の手が入らないことで野生動物と遭遇しやすい森林となっている。
- ・50年後あるべき姿：大雨や台風などの災害でも被害が少ない強い森林になっている。
- ・施策の方針：木を3割程度伐る間伐を進め、明るい森林にする。また、場所によりスギの森林からミズナラなどの広葉樹森林に変えていく。

自然と共生できる森林づくり

- ・現在の課題：森林に人の手が入らなくなり、野生動物が人里に頻繁に出没している。
- ・50年後あるべき姿：クマなどの野生動物と人が棲み分けて暮らしている。
- ・施策の方針：人と野生動物の生活域の緩衝帯を整備するとともに、森林にミズナラの植林を進める。

「宝の山」を守る取り組みについて アクションプラン

森林緩衝帯整備事業※県森林環境税活用

- ・ 県の森林環境交付金を活用し、地域で鳥獣対策として森林の除間伐、刈り払いを行いたいという地区の要望を集め、調査を行った上で整備を実施しています。
- ・ 今後も緩衝帯整備を進め、地域ぐるみの対策を補助していきます。

林道維持管理事業※森林環境譲与税活用 (再掲)

- ・ 柳津町には多くの林道があり、高規格な林道も整備されています。計画的な修繕・整備を行えるよう、森林環境譲与税を活用して林道の維持管理に努めます。
- ・ 林道の安全安心のため、定期的な林道パトロールを実施します。

自然と共生できる森林づくり

※森林環境譲与税活用、県森林環境税活用

- ・ クマが好み、主要な食料とするミズナラはカシノナガキクイムシ被害により多くが枯れてしまっています。また、ミズナラ材はウイスキー樽や建材等多様な需要があるため、ミズナラの植林や樹種転換を推進します。また、柳津町有林等生物多様性が保たれると期待される森林を自然共生サイトへ登録することを検討します。
- ・ ミズナラの育樹のための苗木については、産官学の連携による提供体制構築を目指します。

災害に強い森林づくり

- ・近年頻発する河川・ダムへの流木流出被害については、植林後の間伐が十分でなく森林が過密になりすぎているためであるという指摘があります。柳津町を流れる只見川などの河川への流木被害を軽減するため、適切な森林整備を推進し、過密になりすぎている森林を持続可能な森林に誘導します。

森林認証取得やJクレジット創出などの取り組み（再掲）

- ・県内外で広がる、森林に新たな価値を付与する取り組みである森林認証の取得や、Jクレジットの創出について情報収集に努めるとともに、検証のために町有林での導入可能性を探ります。

里山林整備事業の周知

- ・県で補助を行っている地域主体での里山林整備について、町として周知を行い、地域主体での緩衝帯整備・里山の整備を後押しします。

スローガン

みらいに活かす「宝の山」

4つの柱

「宝の山」の新しい魅力を見つける取り組み

施策の方針

観光に資する森林づくり
遊べる・学べる・癒される森林づくり

アクション

里山のシンボル、森林公園
再整備事業

景観整備事業

森林環境学習・
県民参画の
推進

柳津町の宝、
会津桐利活用
事業

観光に資する森林づくり

- ・現在の課題：越後三山只見国定公園に柳津町も編入され、これまで以上に森林などの環境に注目が集まっている。
- ・50年後あるべき姿：森林に興味を持って観光する人が増えている。
- ・施策の方針：JR只見線沿いや只見川沿い等での景観整備事業を実施する。

遊べる・学べる・癒される森林づくり

- ・現在の課題：柳津町では森林環境学習が盛んに行われており、今後も森林で学ぶ機会を増やしていく必要がある。
- ・50年後あるべき姿：大人も子どももみんなで行って楽しみながら学べる森林が増えている。
- ・施策の方針：里山のシンボルとしての森林公園を体験型施設へ再整備することを検討する。

里山のシンボル、森林公園再整備事業※森林環境整備基金活用

- ・柳津町の森林公園は、林道・実証実験林も併設された大規模な施設となっています。
- ・一方で鳥獣被害等により、キャンプでの利用客の減少、施設の老朽化など多くの課題を抱えています。
- ・そのため、森林公園のエリアを見直し、残すべきところは残し、返すべきところは返し、新たに里山のシンボルとして修景等を行い、薪づくりや炭づくり、キノコ体験等里山の暮らし体験や森林療法を行える体験型施設を検討していきます。なお、その際の森林公園デザインや森林整備については森林環境整備基金を活用して行います。

景観整備事業※森林環境譲与税活用

- ・柳津町は観光業が発展し、多くの方に来町していただいています。
- ・より良い景色を楽しんでいただけるよう、注目の集まるJR只見線沿線や国定公園に編入された只見川周辺において景観を整備したいという地区や団体等からの要望を受け付け、その要望を審査したうえで整備を実施する事業を行います。

森林環境学習・県民参画の推進※県森林環境税活用

- ・柳津町ではほぼすべての小中学生に森林環境学習を実施しており、この取り組みを続けます。また、イベントにおいてウッドチェンジ等の意識醸成を図ります。その財源としては、県森林環境税交付金を活用します。

柳津町の宝、会津桐利活用事業※森林環境譲与税

- ・会津桐は100年以上前から柳津町、とりわけ旧西山村の特産品であり、今でも「金の木」と呼ぶ方がいらっしゃることから、まさしく柳津町の宝です。
- ・会津桐の記念植樹を柳津町の小学生により行い、定期的な管理を実施した上で成人式において育った桐の木材で記念品を作り、活用していく事業の実施を検討します。

奥会津ビジターセンターとの連携

- ・柳津町は越後三山只見国定公園の玄関口として奥会津ビジターセンターが置かれており、国定公園のPRを実施しています。
- ・奥会津ビジターセンターと連携し、柳津町の森林についてのPR等を行っていきます。

森林利活用ビジョンのロードマップ

分類	実施項目	着手時期と完了までの期間の目標					主に取り組む人			
		すぐに	3年後	5年後	10年後	50年後	町	所有者	事業者	町民
「宝の山」 をみらいに 繋げる取り 組み	森林利活用ビジョン運営事業	●	→	→			★		★	★
	森林境界明確化事業	●	→	→	→	→	★			
	森林経営管理制度※森林境界 明確化事業完了後						★			
	認可地縁団体活用推進事業	●	→	→	→	→	★	★		★
	経営計画作成推進事業	●	→	→			★	★	★	
	「木を伐る達人」後継者育成 事業	●	→	→	→	→	★			
	柳津町木製品プレゼント事業	●	→	→	→		★			
「宝の山」 を磨き上げ る取り組み	町有林管理事業	●	→	→	→	→	★			
	国県補助金を活用した森林整 備事業		●	→	→	→	★	★		
	林道維持管理事業	●	→	→	→	→	★			
	森林認証取得やJクレジット 創出などの取り組み		●	→	→	→	★	★		
	木材供給網構築に向けた取り 組み		●	→	→	→	★		★	

分類	実施項目	着手時期と完了までの期間の目標					主に取り組む人			
		すぐに	3年後	5年後	10年後	50年後	町	所有者	事業者	町民
「宝の山」を守る取り組み	森林緩衝帯整備事業	●	→				★	★		★
	自然と共生できる森林づくり	●	→				★	★		★
	災害に強い森林づくり	●	→				★	★	★	★
	里山林整備事業	●	→					★		★
「宝の山」の新しい魅力を見つける取り組み	森林公園再整備事業	●	→				★		★	
	景観整備事業	●	→				★	★		★
	森林環境学習・県民参画の推進	●	→				★			★
	会津桐利活用事業	●	→				★			★